

三浦半島地域連合・労福協共催 防災に特化した地域外視察実施!

高エネルギー加速器研究機構、防災科研『つくば本所』、首都圏外郭放水路などを視察!

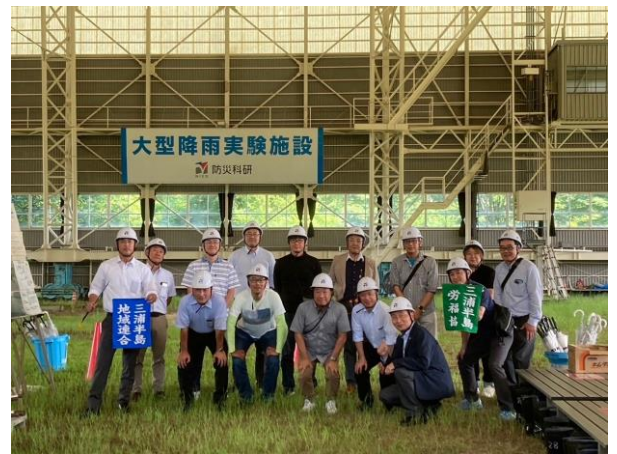
三浦半島地域連合主催、労福協共催で6月3日～4日にかけて、新型コロナウイルス前の2019年以來となる、宿泊をともなう地域外視察を16名参加のもと行いました。



今回のテーマは、近年、自然災害が激甚化し、地震をはじめ、台風やゲリラ豪雨による災害も年々増えており、今年に入っても『能登半島地震』、『台湾東部沖地震』により多くの人命が奪われている状況です。



三浦半島地域連合としても政策・制度要求と提言で減災対応などの提案している中、今回は防災にスポットをあてた研修視察を計画、高エネルギー加速器研究機構、防災科研『つくば本所』、首都圏外郭放水路などを視察しました。



これから参加者報告も受けますが、印象に残った事項を2つ

紹介します。1つ目は初日3日に訪れた防災科研『つくば本所』です。地震や水害などあらゆる自然災害をシミュレーション出来る設備をもとに減災に向けた研究内容などを知ることが出来ました。2つ目は4日の視察で訪れた首都圏外郭放水路です。首都圏のゲリラ豪雨や大雨から、洪水・浸水を守るために1993年に着工し、13年の歳月をかけ2006年に世界最大級の地下放水路が出来上がり、完成以降、年に10回程度稼働し、



地域を水害から守る役割を果たしています。

今回は視察については、常にバス移動であったことや宿泊も兼ねることが出来たことにより、視察に参加した皆さんと交流をふかめられたということも、大きい成果でした。

今回の視察を活かして、今後進めて行く、政策・制度要求と提言における、災害に強い町づくりに生かしていきます。

